

和歌山県立医科大学に対する加盟判定審査結果

I 加盟判定審査結果

2003（平成15）年度加盟判定審査の結果、貴大学は本協会の大学基準に適合していると認定されたので、正会員への加盟・登録を承認する。

II 総 評

1 理念・目的・教育目標の達成への全学的な姿勢

貴大学は、国家的要請と、県民の強い要望と期待のもとに設立された沿革を背景に、学校教育法に定める大学として、医学に関する学術知識および技能を教授、研究し、社会に貢献できる優秀な医師を育成するために必要な教育を行うとともに、医学の深奥を究めて医学医療の水準の向上に努め、もって文化の進展と社会の福祉の充実と発展に寄与することを目的としていることが教育要綱等に明示されている。また、地域に密着した県立医科大学として、和歌山県の医療、保健、福祉の充実、向上のため、もてる機能を発揮し、県民の、ひいては人類の健康増進に寄与することも目的として掲げている。

医学研究科に関しては、「医学の理論および応用を教授し、自立して研究活動を行うのに必要な深い学識と高度な研究能力を備えた優れた人材を育成する」ことを目的とし、その教育目標としては「自由かつ豊かな発想で新たな医学的研究課題に挑戦する人材を育成する」ことを掲げている。

2 自己点検・評価の体制

貴大学では、1993（平成5）年10月に自己点検・評価委員会を設置し、1998年～1999（平成10～11）年の総合移転を目指す中で点検・評価が実施された。その活動成果は、キャンパス移転に反映されたとしている。その後は、直面する課題ごとに個別の委員会や検討会を組織して対応してきたとされるが、今回の本協会加盟申請が総合的な自己点検・評価を行う契機となったように、今までは自己点検・評価がシステムとして十分に機能してこなかった。設置者が和歌山県であることから、大学の活動状況を積極的に公開して県民にアピールすることが大切であるが、現状では「和歌山県立医科大学報告書」等を刊行して学内外に公表しているにすぎず、研究業績以外の分野についても自己点検・評価の実施と、さらには第三者評価による検証が必要である。

また、大学院の自己点検・評価は、医学部と包括的に行っているが、大学の再編・

整備に取り組む上では大学院独自の自己点検・評価の制度化が必要である。

さらに、こうした点検・評価の結果を大学の改善・改革に結び付けるような制度を確立することが重要である。

3 長所の伸張と問題点の改善に向けての取り組み

1998（平成10）年9月に新キャンパス（紀三井寺）に移転したことにより、教育研究活動の場としての施設・設備は新しく充実したものとなり、そのスペースおよび機器についても十分な機能を果たしている。また、新たな研究組織に対応するためのスペースも準備されている。これら新しい時代の医療を担う医学教育研究機関として体制を整備されたことは今後の発展に大きな期待が寄せられる。

しかしながら、FD活動の一層の活性化が望まれる点、大学の活動状況全般を点検・評価する必要がある点など、改善が望まれる事項もいくつか認められる。

生涯研修・地域医療センターは、地域医療に従事する医師その他の医療従事者の生涯学習の充実に寄与するとともに、地域の保健医療および福祉の向上に資することを目的に設置されているが、今後和歌山県内の各地域への医師供給拠点となるべく、より積極的な運営のための方策を検討することが期待される。

また、研究活動も、先端医学研究所等の整備により垣根を越えた共同研究、学際的研究に関わる取り組みが始められてはいるが、今後さらに積極的な姿勢が望まれる。これらの点を含め、以下に示す助言を踏まえ一層の改善に努めるとともに、参考意見にも配慮されたい。

Ⅲ 大学に対する助言

総評に提示した事項に関連し、特に改善を要する点や特筆すべき点を以下に列挙する。

一、勸告

なし

二、助言

1 理念・目的・教育目標について

① 長所の指摘に関わるもの

なし

② 問題点の指摘に関わるもの

なし

2 教育研究組織について

① 長所の指摘に関わるもの

なし

- ② 問題点の指摘に関わるもの
なし

3 大学・学部等の教育研究の内容・方法と条件整備について

(1) 教育研究の内容等

① 長所の指摘に関わるもの

- 1) 基礎医学教育の最後に、少人数による基礎配属（2ヶ月）を設けて学生のモチベーションを高めることは有意義であり評価できる。
- 2) 4年生の臨床講義の代わりに行うチュートリアル教育は、短期間ではあるが評価できる。

② 問題点の指摘に関わるもの

- 1) 講述講義中心の座学の多い伝統的カリキュラムとなっている。新しい医学教育の流れをより積極的に取り入れることが望まれる。

(2) 教育方法とその改善

① 長所の指摘に関わるもの

なし

② 問題点の指摘に関わるもの

- 1) シラバスの記載内容にばらつきがあるので改善が望まれる。
- 2) 学生による授業評価を組織的に実施し、教育改善に努めることが望まれる。
- 3) 新しいOSCEなどの評価方法も取り入れられているが、臨床実習の評価がなされておらず、これもOSCEを使って評価することが望まれる。
- 4) FDの活性化や教員評価による教育レベルの向上に積極的に取り組む必要がある。

4 大学院研究科の教育・研究指導の内容・方法と条件整備について

(1) 教育・研究指導の内容等

① 長所の指摘に関わるもの

なし

② 問題点の指摘に関わるもの

なし

(2) 教育・研究指導方法の改善

① 長所の指摘に関わるもの

- 1) 院生の研究指導を大学院全体で行おうという趣旨から、大学院セミナーと研究討議会の制度が確立していることは評価できる。
- 2) 院生の国際学会での発表を推進していることは評価できる。

- ② 問題点の指摘に関わるもの
 - 1) 概して、古い体質の大学院研究科という印象を受ける。大学院の教育、研究指導の点検、方法の改善を総合的に行う取り組みが望まれる。
- (3) 学位授与・課程修了の認定
 - ① 長所の指摘に関わるもの
 - 1) 優れた研究業績を上げた者に対する大学院早期修了者の制度を設けていることは評価できる。
 - 2) 学位請求論文の掲載雑誌については、査読付き学術誌に限定して質の確保を図っており、評価できる。
 - ② 問題点の指摘に関わるもの
 - 1) 英文論文の比率が低い点は改善の必要がある。今後内容の高度化を図りつつその比率を高める努力が必要である。
- 5 学生の受け入れについて
 - ① 長所の指摘に関わるもの
 - 1) 2001（平成 13）年度から和歌山県内の現役学生に限定した推薦入学試験を採用したことは、地域の保健医療、福祉の向上に貢献するという建学の理念に適うものであり評価できる。
 - ② 問題点の指摘に関わるもの
 - 1) 学部の収容定員に対する在籍学生数比率がやや高いので、留年率の高い学年があること（4年次 15.5%、6年次 10.9%）にも留意し、その理由を明確にするとともに適正化に努力することが望まれる。
 - 2) 研究生制度が2種あるが、大学院制度の発展の阻害要因とならないように配慮する必要がある。
- 6 教育研究のための人的体制について
 - ① 長所の指摘に関わるもの
 - なし
 - ② 問題点の指摘に関わるもの
 - 1) 研究補助体制に不足があるならば、院生のTAを採用するなど人的資源の活用も考慮する必要がある。
- 7 研究活動と研究体制の整備について
 - (1) 研究活動
 - ① 長所の指摘に関わるもの
 - 1) 共同研究支援体制として「先端医学研究所」が設置されるとともに、学長

決済の「医学研究助成」が予算化され、共同研究、学際的研究を推進する役割を果たしていることは評価できる。

② 問題点の指摘に関わるもの

- 1) 提出された資料によると、教員の一部に論文発表が少ない者が見受けられる。専任教員の業績（教育、研究等）評価（第三者評価）を行うなど、研究活動を活性化させる方策が必要である。

(2) 研究体制の整備

① 長所の指摘に関わるもの

なし

② 問題点の指摘に関わるもの

なし

8 施設・設備等について

① 長所の指摘に関わるもの

- 1) 1998（平成10）年9月の新キャンパス統合移転により、大学・学部および医学研究科の施設・設備等が充実した。またバリアフリー化に対応した施設は評価できる。

- 2) 生涯教育・地域医療センターの整備は、大学の理念に照らして評価できる。

② 問題点の指摘に関わるもの

なし

9 図書館及び図書等の資料、学術情報について

① 長所の指摘に関わるもの

なし

② 問題点の指摘に関わるもの

なし

10 学生生活への配慮について

① 長所の指摘に関わるもの

なし

② 問題点の指摘に関わるもの

- 1) セクシュアルハラスメントに関しては、学生のみならず、教職員に徹底するための広報活動を積極的に行う必要がある。

11 管理運営について

① 長所の指摘に関わるもの

なし

② 問題点の指摘に関わるもの

- 1) 委員会の数が多すぎるので、これらを整理統合して、管理運営体制の簡素化を図ることが望まれる。

12 事務組織について

① 長所の指摘に関わるもの

- 1) 事務組織は「和歌山県行政組織規則」により設置運営されているが、2002（平成 14）年度から県に担当の参事を設け、大学改革推進の強化を図るなど、大学と「和歌山県総務学事課」との関係が築かれていることは評価できる。

② 問題点の指摘に関わるもの

なし

13 自己点検・評価等について

① 長所の指摘に関わるもの

なし

② 問題点の指摘に関わるもの

- 1) 自己点検・評価委員会がシステムとして十分に機能していない。各部門にフィードバックして継続的に改善を積み重ねることのできるシステム構築が必要である。また、学内だけの自己点検・評価だけでなく、外部評価による検証が必要である。
- 2) 大学として、大学院研究科独自の自己点検・評価を実施することが望まれる。